令和８年７月７日

福岡医療専門学校
校長　田中　七郎　殿

学校関係者評価委員会
委員長　下迫　勇夫

学校関係者評価委員会報告

令和７年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

１　学校関係者評価委員会　委員　　（五十音順　敬称略）

行徳　倫子	公益財団法人那珂川市教育文化振興財団
下迫　勇夫	福岡医療専門学校 非常勤講師
宮城　徳久	鍼灸整体院サロン MiN 代表
山中　知愛	医療法人 西福岡病院 放射線科 科長
古川　辰巳	株式会社 INTERACTION 代表取締役
渡辺　淳一	（株）堺整骨院西代表取締役 ４期卒業生

２　学校関係者評価委員会の審議スケジュール

（１）自己点検・自己評価報告書の書面審議（令和７年度）

（２）令和８年６月 20 日（土）学校関係者評価委員会開催

３　学校関係者評価委員会報告

別紙のとおり

以　上

別紙

Ⅰ　重点目標

１　教育活動

○　令和年 7 年度の国家試験合格率は、柔道整復師が合格率 97.1%、はり師 97.1%、きゅう師 97.1%、理学療法士 97.8%、看護師 96.4%、診療放射線技師 91.2%、歯科衛生士 100%であった。全資格が全国平均を大きく上回る実績であった。卒業年次の本校独自の国家試験対策に加え、入学時からの基礎教育への取組みが高い国家試験合格実績に反映している。歯科衛生科は今年度１期生が 100%を達成できた。

○　実践的な職業教育においては、医療機関と本校教員と医療機関とが密接に連携するとともに教育課程編成委員会等で外部委員からの意見や情報を共有し、学生にとって有意義な教育が行われている。

○　「退学者 0（ゼロ）」の取り組みにより退学率は減少しているが、更なる改善が望まれる。

２　実践的な職業教育

○　地域医療機関等と連携した教育課程を編成し、より実践的な職業教育の質の確保・向上に取組んでいる。文部科学大臣が認定する職業実践専門課程の認定を受け、年 2 回、教育課程編成委員会を開催し、外部委員から貴重な現場の意見を集約している。

○　6 学科体制を活かした多職種連携教育を推進させるため、他学科と交流する活動を行った。

○　知識・技術だけでなく人間性についても重要視し、社会人としてのマナー、身だしなみ等を初年度教育で徹底して指導しているが、ＳＮＳの問題や多様性による学生の気質の変化など課題が残る。学力だけでなく医療人としてふさわしい、就職先等が求めるレベルに対応した人材の育成が大切である。

３　「退学者０（ゼロ）」に向けた取組み

○　全校を挙げた取り組みにより今年度の新入生の退学率は　減少しているが、さらなる改善が望まれる。多様化する教育指導に対応していく必要がある。

○　教職員において、更なる学生指導上の知識向上に努めるため、FD 研修や外部研修会への積極的な参加の継続を推奨している。

Ⅱ　各評価項目

1　教育理念・目的・人材育成像

評価・意見	4段階評価平均
○　理念・目的・育成人材像は明確に定められている。定められた内容に対して教職員が一丸となって取り組んでいる。育成人材像については時代の変化に応じ柔軟に対応している。 ○　高い目標のもとに教育計画が定められている。 ○　今年度歯科衛生科の１期生が国家試験に全員合格しており教育内容が実績に表れている。	4

2　学校運営

○　運営方針は評議員会の意見を踏まえて理事会で決定する。運営方針に則り、毎週、開催される運営会議で運営状況を確認し、学科・分掌会議において具体的な方法が検討・実施されている。 ○　複数学科を同時に受講できることが、これからの医療現場を考える上で評価できる。 ○　館内照明の LED 化が完了しエコロジーへの取り組みも進んでいる。 ○　職員の育休制度が積極的にとられており、働きやすい職場環境が整備されている。	4

3　教育活動

○　職業に関連した資格の取得に力が入れられている。 ○　社会の求めに応じた医療人教育がなされている。 ○　タブレットや情報共有システム等を用いて、教育課程の幅を広げている。 ○　国家資格取得を目標とした教育方針、計画をもとに実施されている。 ○　ＳＮＳに関する問題に対して弁護士等の専門家への協力依頼も必要である。 ○　看護師の業界での退職者が多いことについて、志望する学生個人の問題等も考えられるため、学校現場での教育による取り組みを期待したい。	3.9

4　学修成果

○　学修成果については、高学年、低学年の学力を把握するため、学習範囲に応じて国家試験形式の試験、実力試験、模擬試験等を計画的に実施した。その結果をもとに到達度、理解度を教員で共有し、授業や実習、補習等を工夫して学生の学習意欲や学力の向上が図れた。 ○　上記の取り組みが、全国平均を大きく上回る国家試験合格率に成果として表れている。 ○　100％の就職率は高く評価できる、全国トップクラスの国家試験合格率があり就職、資格取得ともに十分な対策がなされている。既卒者の国家試験合格率の向上が図れるとなお良い。	4

5　学生支援

○　就職・進路に関する支援や、学生相談、学生の経済面に対する支援は確立されているが。学生相談については専門のアドバイザーがいたほうが良い。 ○　退学率については改善されており取り組みの成果が出ているが、退学者の傾向について分析する必要がある。 ○　保護者との連携は信頼関係の向上にもつながるため非常に良い取り組みである。	3.6

6　教育環境

○　学外自習において、実習生は学内で細かい指導を受けており、施設の連携が適切に行われている。 ○　施設・設備など教育環境は非常に充実している。 ○　防災面については教職員全員参加による訓練が行われている。 ○　海外研修への対応も適切に行われている。	3.8

7　学生の募集と受入れ

○　入学試験については、オンライン入試や熊本・宮崎・沖縄にて県外入試を実施することで、受験生の利便性向上に努めている。 ○　学生募集における SNS の活用などが積極的になされており若者のニーズにしっかりアプローチできている。 ○　卒業生の職場等への学生募集に関する協力の依頼なども積極的に行われている。 ○　少子化の厳しい環境の中、細かな努力により学生募集が行われている。 ○　入学後に医療従事者として成長すべきであるという覚悟を持つように、学生募集の段階でも伝える必要がある。	4

８　財　務

○　適正な監査の実施、情報の公表ができている。	4

９　法令等の遵守

○　法令等の遵守は適切である。 ○　学校関係者評価委員会が開催され、公開されている自己点検・自己評価報告書を基に、活発な議論及び評価がなされている。 ○　ＳＮＳに関する研修を早期に実施するべきである。	3.8

10　社会貢献・地域貢献

○　ボランティア活動については、福岡マラソンの救護活動に加え、高校野球や民間のスポーツイベントなど多岐にわたるボランティア活動に参加した。 ○　社会貢献や地域貢献に関する活動支援は十分にできている。 ○　海外研修による国際交流も活発に行われている。	4

まとめ

新委員を迎えての今年度の各評価項目は平均 3.91（4 段階評価）の高水準の結果であった。令和 7 年度の重点目標の 1 つにある「退学者 0(ゼロ)」に向けての教職員の取り組みには学校運営において高い評価ができる。一方で SNS の使用に関する問題や医療従事者を目指す学生としての倫理観などについて課題が残る。SNS の問題については専門家の協力を仰ぐなどの対応も検討すべきである。倫理観については多様性というものを間違って解釈している学生もいると思われ、教育していく必要がある。教育活動においては、全科国家試験全員合格はもちろんであるが、知識・技術・人間性を備えた医療人材を育成への取組みを継続し、質の高い医療従事者の育成を期待する。